

横浜市インフルエンザ流行情報 4 号

横浜市健康福祉局健康安全課／横浜市衛生研究所

<<トピックス>>

インフルエンザが流行しています。

【概況】

2023 年第 3 週(1 月 16 日～1 月 22 日)の定点あたりの患者報告数^{※1}は、横浜市全体で **8.89** と、前週の 4.95^{※2} から増加しました。

年齢別では、10 歳未満の報告が全体の 61.7%、15 歳未満の報告が全体の 80.0% を占めています。

学級閉鎖等は、第 49 週(2022 年 12 月 5 日～12 月 11 日)以降報告されており、第 3 週までで、合計 23 件(小学校 19 件、中学校 4 件)、患者数 228 人です。

今シーズン第 3 週までの市内の迅速診断キットの結果は、累計で **A 型 99.2%**、**B 型 0.8%**、**A・B 型ともに陽性 0.0%** と、A 型が多く検出されています。なお、全国のウイルス分離・検出状況^{※3}では、AH3 型が多く検出されており、横浜市での検出状況も同様です。

今シーズンは、インフルエンザおよび新型コロナウイルス感染症が流行しています。かからないために丁寧な手洗い^{※4}や適度な湿度(50～60%)を保ち、うつさないために咳エチケットを徹底し、重症化予防のために予防接種を受けるなど、適切な準備^{※5}を行いましょ

※1 定点あたりの患者報告数とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内 153 か所)から報告された患者数の平均値です。

※2 追加報告があったため、以前お知らせした情報から報告数が更新されています。

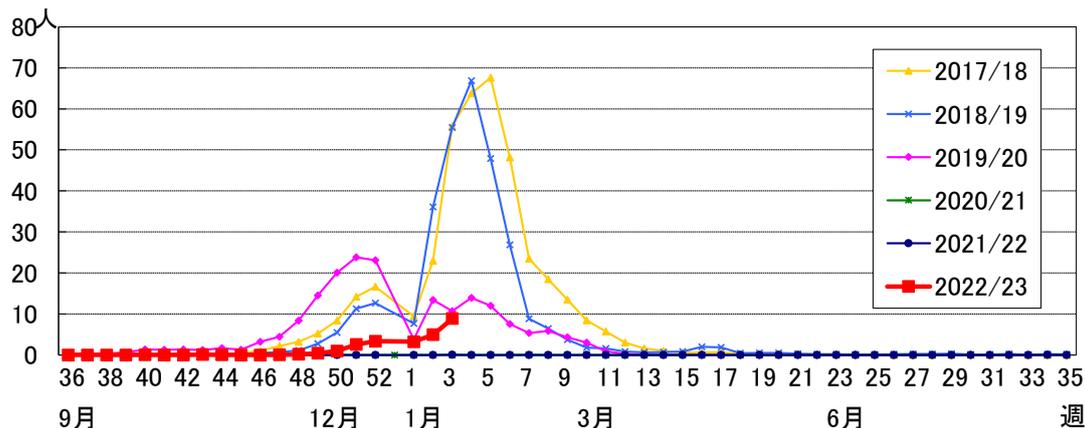
※3 [インフルエンザウイルス分離・検出速報\(国立感染症研究所\)](#)

※4 [横浜市保健所ホームページ](#)(「正しい手洗い方法」および、掲示用ポスター「石けんで『手』を洗おう」をトップページに掲載しておりますので、是非ご活用ください)

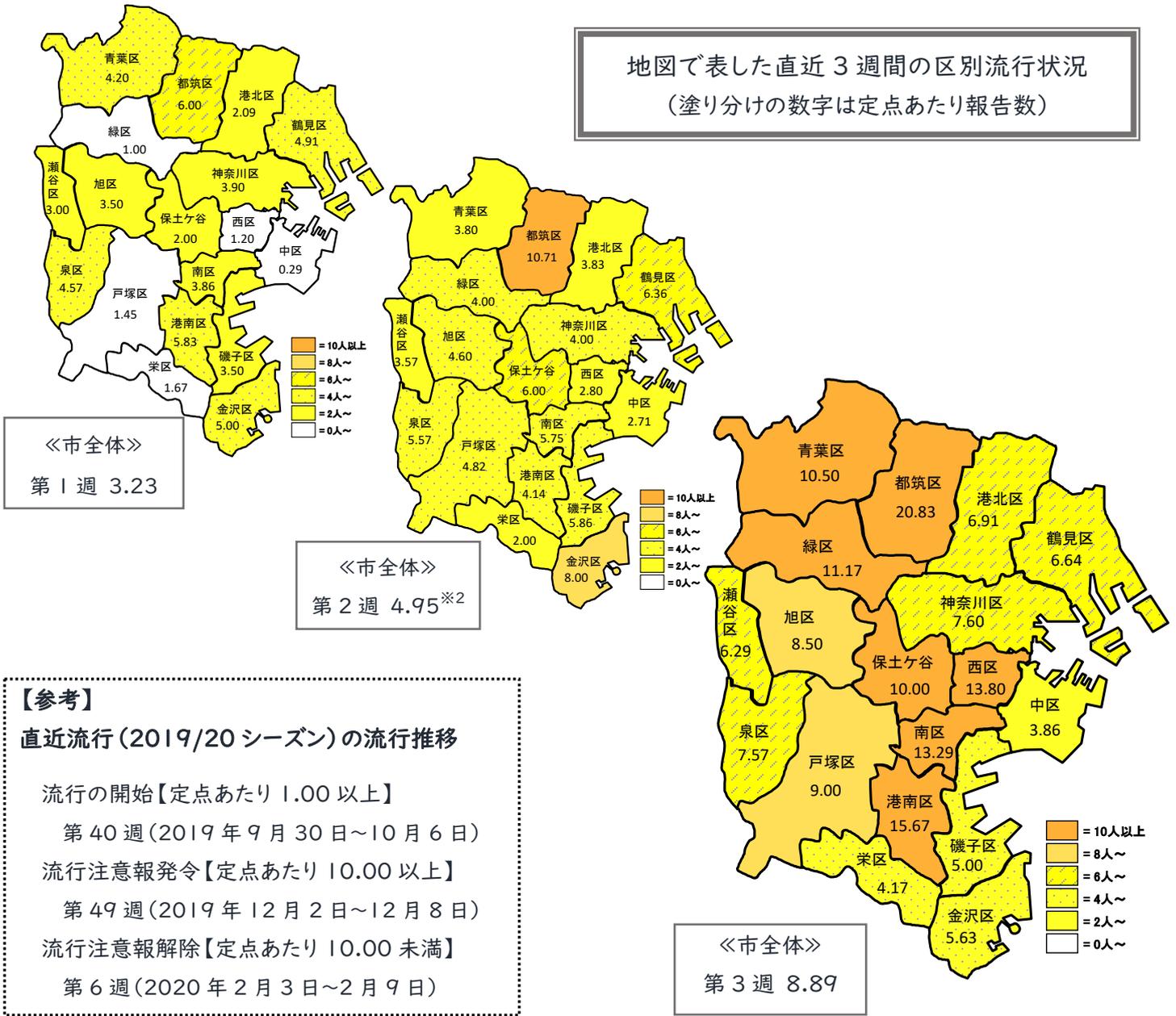
※5 [市民向けインフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)

【市内流行状況】

市全体の定点あたりの患者報告数は、第 46 週以降増加しており、第 51 週で 2.55 となり、流行開始の目安となる 1.00 を上回りました。第 2 週は 4.95^{※2}、第 3 週は 8.89 となっています。

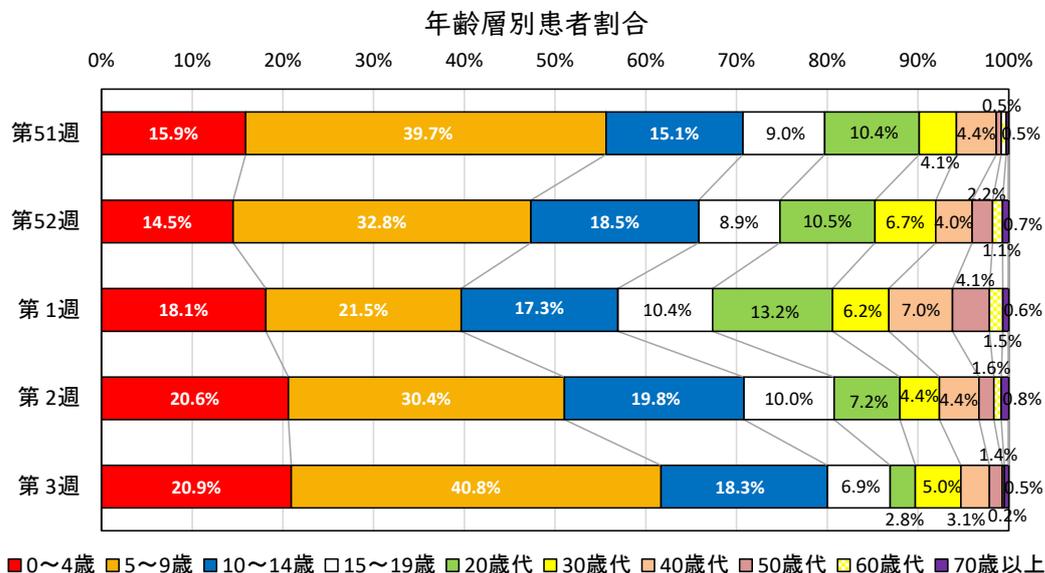


地図で表した直近3週間の区別流行状況
(塗り分けの数字は定点あたり報告数)



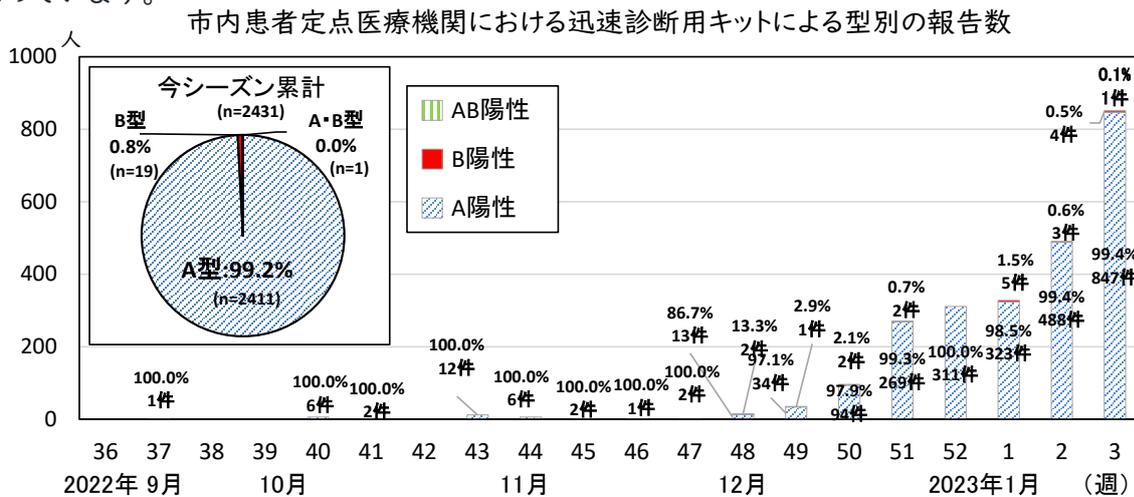
【年齢層別集計】

第3週の患者年齢構成は、10歳未満が61.7%、10歳から15歳未満が18.3%となっており、15歳未満が全体の80.0%を占めています。



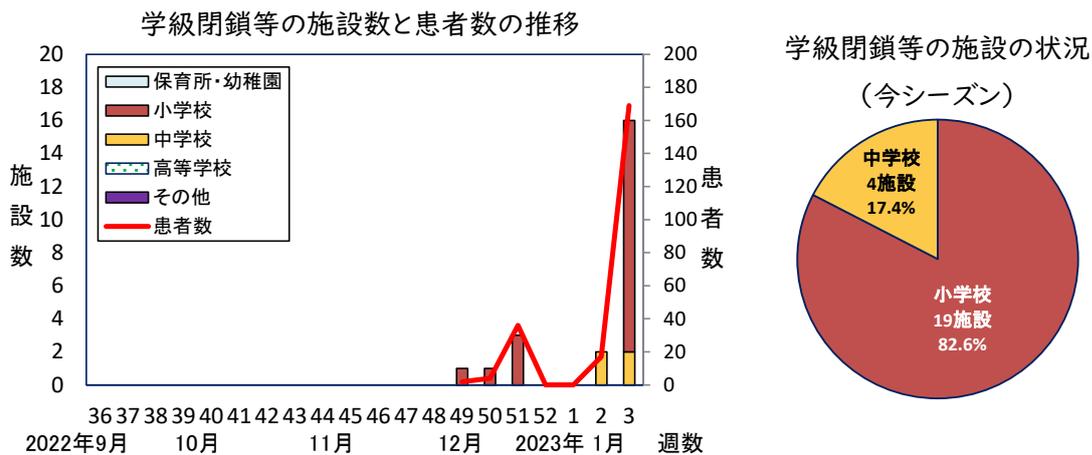
【迅速キット結果】

第3週の迅速キットの結果はA型99.4%、B型0.5%、A・B型ともに陽性0.1%で、A型がほとんどを占めています。今シーズン累計は、A型99.2%、B型0.8%、A・B型ともに陽性0.0%となっています。



【市内学級閉鎖等状況】

第3週は、16件の報告(小学校14件、中学校2件)があり、報告された患者数は169人でした。今シーズンの累計では、第3週までに23件の報告があり、報告された患者数は延べ228人となっています。報告された施設の割合は、小学校82.6%、中学校17.4%となっています。



【入院サーベイランス】

市内基幹定点医療機関^{※6}におけるインフルエンザ入院患者は、第3週に3人が報告され、今シーズンは現在までに累計21人(10歳未満7人、20歳代1人、30歳代3人、50歳代1人、60歳代1人、70歳代2人、80歳以上6人)が報告されています。

入院時の診療内容が把握されている事例で、ICU入室、人工呼吸器の使用、頭部CT検査、脳波検査等が実施された重症肺炎や脳炎が疑われる入院患者は、第51週に1人、第52週に1人、第1週に4人、第2週に3人報告されています。

※ 基幹定点:患者を300人以上収容する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には4つの基幹定点があります

<<参考リンク>>

近隣自治体の流行状況

○[神奈川県](#)

○[川崎市](#)

○[東京都](#)

全国の流行状況

○[国立感染症研究所](#)

【お問い合わせ先】 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
横浜市健康福祉局健康安全課

TEL 045(370)9237
TEL 045(671)2463